

# とんぼりニュース

2016年  
12月号  
Vol.134

2016年 11月28日  
発行

道頓堀商店会報  
http://www.dotonbori.or.jp

道頓堀商店会事務局  
〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1-7-21 中座くいだおれビルB1  
TEL.06-6211-4542 FAX.06-6211-9764  
発行人：今井 徹

## 落語も楽しんで、オーナー部会が盛大に開催。

今年度2回目のオーナー部会が11月11日(金)、「はり重」道頓堀店で開催され、25名の参加がありました。第一部は、大阪市地域安全担当課長の出水裕之様に道頓堀周辺における客引きの状況について報告をしていただきました。2年前に施行された「客引き条例」は居酒屋系の客引きを対象としていたが、最近は風俗店、バーなどの悪質な客引きが多く、今後はこれに対応した規則や防止対策を強化していきたい旨の話がありました。引き続き、環境浄化、総務・財務の各委員会から最近の活動の報告がありました。



▲林家染八さんが、落語「ふく鍋」を熱演。



▲すき焼き鍋を囲んでの交流会、自己アピールで盛り上がりました。



▲大阪市出水課長が、「客引き」状況を報告しました。

**安全、安心の街をつくるため、年末のパトロール、夜回りにご参加ください。**  
今年もあとひと月を残すのみとなりました。何かと慌ただしい年末ですが、快適なお正月を過ごすため、安全、安心な道頓堀にしたいものです。  
12月9日・四商店街合同パトロール、15日・17日・夜回り、21日・ミナミ飲食街環境浄化合同パトロールが予定されています。今年最後の合同パトロール、また年末恒例の防犯防災の夜回りに積極的にご参加を！  
下記、「行事予定」を参考にしてください。



## 道頓堀ZAZA

### 侍チャレンジVoi-i 「刻の審判」

日時：12月3日(土) 19時30分  
12月4日(日) 13時30分、18時30分  
出演：段林慎平 藤本麻由 田中亮寛 藤村風香 梨噺 安田有紀子  
宮川真由美 かすみはる 田坪心翔 藤原雄也 高山大 高橋唯  
稲田琴美 上野優樹 関井望  
料金：前売2800円 当日3000円  
お問合せ：OfficeCMC TEL/FAX 06-6255-8000

### 真紅組番外公演 teamDois「8人の女たち」

日時：12月9日(金) 19時30分  
12月10日(土) 14時、18時、  
12月11日(日) 11時30分、15時30分、  
出演：古田里美 野村ますみ 阿部遼子 樋口友三衣 中村ゆり  
たもつ 萩原有見 若木志帆  
料金：一般 前売3000円 当日3300円  
学生 前売2000円 当日2300円(※要学生証)  
子供 前売1500円 当日1800円(※12歳以下)  
お問合せ：真紅組 akagumics@yahoo.co.jp

### 「道頓堀SUPER歌謡劇場」 心に響く!! 昭和の流行歌

日時：12月14日(水) 13時、16時30分、  
18時30分  
(2回公演と一部歌唱内容が変わる場合がございます)  
出演：中村泰士 浅田あつこ エンジュ 北沢麻衣  
もりやすパンパピ方ロ 渡辺要(50首順)  
料金：2500円  
お問合せ：道頓堀SUPER歌謡劇場実行委員会  
06-6158-6590



## 2016年 12月の行事予定

- 3(土) 福娘発表会  
12時 国際会議ホール
- 8(木) 第一回店長会  
14時 道頓堀今井
- 9(金) 四商店街合同パトロール(予定)  
17時 戎橋交番前
- 13(火) ミナミ飲食街環境浄化推進協議会連絡会議  
16時 南署
- 15(木) 12月度定例役員会  
16時 事務局
- 16(金) 防犯防災警戒夜回り  
18時30分 はり重前
- 17(土) 防犯防災警戒夜回り  
18時30分 はり重前
- 20(火) とんぼりパワーウォーク賑わい創出連絡会  
10時 スポタカ
- 21(水) ミナミ飲食街環境浄化合同パトロール  
18時30分  
難波高島屋グリーン前広場
- 25(日) 四商店街代表者会議  
16時 宗右衛門町商店街振興組合

## 今宮戎神社宝恵駕行列 二名の商店会代表が 決まりました。

平成29年度の今宮戎神社宝恵駕行列は1月10日(火)です。とんぼりパワーウォークで出発式を行い、各商店街を行列して今宮戎神社に参拝します。宝恵駕に乗っていただく道頓堀商店会の代表は、Naggy(ナギー)さんと吐合幸乃(はきあい、ゆきの)さんです。12月3日(土)、大阪商工会議所で行われる今宮戎神社の福娘発表の後、各商店会代表も登場、Naggyさんに当商店会のPRと自己アピールをしていただきます。会員の皆さんの応援をよろしく願います。



▲ Naggyさん



▲ 吐合幸乃さん

## 「なんばひろば改造計画」 社会実験が行われました



▲ 社会実験エリア

なんば駅前を待ち合わせや憩いの空間、観光案内など、ミナミの玄関口にふさわしい広場にしようと社会実験が行われました。11月11日(金)～13日(日)の3日間、高島屋前の市道を南行き一方向通行に、タクシー乗り場を西側に移動させ、約1200平方メートルの広場が出現しました。地面にはウッドデッキを敷き、ステージ、飲食屋台やマルシェ、約100席のカフェスペースなどを設け、ミナミを訪れる人々がくつろげる空間となりました。



▲ 重機に触れられるクボタ企業ブースは子供に大人気



▲ 交差点に「にぎわいのひろば」が登場



▲ ペーパーラフトのワークショップも



▲ まちなかライブラリで本を楽しむ



▲ カフェも大賑わい

「食器なんかも買えて、ショッピングもできる」「道の真ん中で」コーヒが飲めるなんて」「なんで前からこうじゃなかったんだろう、すてきな空間」  
「9日が終わってしまっなんてもったいない。このままにしておこう」  
など来場者のいろんなコメントがありました。若い人たちからお年寄りまで、広い年齢層に好評で、地元の人、買い物客、観光客、会社員など、それぞれの立場から魅力的な街づくりを考える機会となりました。



時の人・インタビュ

# 上方舞は、ストリート発信です。

10月22日道頓堀リバーフェスティバルの川面舞台にて、『南地小唄』を披露した山村友五郎さん。  
「観て楽しい、踊って楽しい。  
今ならカラオケに近いんじゃないかな」。  
気取らない伝統文化の粋を今に伝える、  
山村流宗家にお話を伺いました。(聞き手・中田真弥子)



プロ  
フェイ  
ル

山村 友五郎 (やまむら・ともごろう)

上方舞・山村流六世宗家。  
2014年7月、山村若改め、約120年ぶりに三代目山村友五郎を襲名。  
日本舞踊の普及に努めるとともに、文案、上方歌舞伎、宝塚歌劇、OSK等の振付、舞踊指導など、幅広く活躍。また、流祖所縁の演目の復曲にも意欲的に取り組んでいる。昨年日本芸術院賞を受賞。  
11月26日には東京の国立劇場で、開場50周年記念として、『舞の会 一京阪の座敷舞一』に出演。



の頃は南地の芸者さんに宿題を見てもらったりしていました。ミナミが大好きなんです。嫁さんにも「もうミナミの子になりなさい」なんて言われています。ミナミの土になりたいと思っています。

観光立国と言われて久しいですけど、道頓堀は観光拠点として発展していますね。ただその反面、地元の人立ち寄りにくくなっているのかなと感じます。

伝統芸能でもこの地で行きたいという人はたくさんいます。小さくとも、芸能を見せる場が増えていけばいいなと。そして、芸能の力で大阪の地元の人を道頓堀に引き寄せられたらいいなあ、と思っています。



▲南地大和屋「へらへら踊り」。

恒例になりつつある「南地大和屋へらへら踊り」は今年の川面舞台でも大人気でした。  
「へらへら踊り」は祖母の四世宗家・山村若が昭和の初めごろに南地大和屋さんのために振り付けた作品です。振り付けた踊りは大和屋さんのものになるのですが、平成15年(2003)に舞台ともどもお店を閉められ、その後は上演の機会がなく、残念でした。それが、襲名をきっかけに、それ以外の作品も含めて、当家に譲られました。襲名披露公演の時に女将さんから「しっかり伝えていってほしい」と言っていたので、その後もいろいろな機会に上演させていたでいています。

東京の国立劇場50周年公演でも「へらへら踊り」をしてほしいということで、11月の『京阪の座敷舞』で披露しました。

お座敷で披露される舞から発展した上方舞ですが、能の流れを汲む上品な所作が、お稽古事としても大変人気があったと聞きます。

「上方舞」というのは、東京に対して言う呼び方でして、大阪の地元では、昔、舞のことを「山村」と呼ぶほどだったそうです。お稽古に行く時に「ちよと山村」という風で……。芸能とお稽古事が共存していたんでしょね。バレエやピアノのお稽古が、ヨーロッパだとかプロになるわけでもないのになぜ？と言われたりしますが、こちらでは当たり前な日常の中に入っていますね。芸事が好きなら那もたくさんいましたし、自分が地味を唄って、芸妓に舞わせる、ということもありました。実は、上方舞の扇子は東京の物よりも小さいんです。東京は九寸五分(約29センチ)ですが、上方舞では昔は八寸。日本人の体格が良くなってきたこともあり、祖母が山村若の時に、八寸五分の扇子を使うようになった。その写真が新聞に載った時に「伝統が守られていない」というクレームが来たそうです。小さな写真でも、わずかに15センチの違いに気づくほど身近な存在だったんです。

お座敷という文化が大阪で少なくなり、上方舞に触れる機会というのは限られてしまっているのではないのでしょうか。

そうですね。でも最近では「へらへら踊りをやりたい」と言っている小学生が来たりします(笑)。本来、逆立ちをした時に芸妓さんの着物めくられて、足首がちりりと見えるのが色っぽい……、そういう大人の踊りなんですけどね。最近、カルチャーセンターも含めて伝統芸を習いたいという方が増えてきてはいますが、いろんなきっかけを作って、たくさんの人に観ていただきたいですね。「川面舞台」は本当にいいきっかけ作りでした。

道頓堀とは縁が深い山村流ですが、これからの道頓堀についての想いをお聞かせください。

宗右衛門町の夏祭りで橋の上で踊らせていただいているんですけど、屋台で買った串を頬張るおじさんも楽しんでいるのが伝わってきて、やっけて良かったなと。上方の芸というのはやはりストリート発信、民衆の中にあるんだな、と思います。私は千日前丁目の出身で、子供



▲川面舞台で「南地小唄」を披露。

## 道頓堀の看板文化と安全な街づくりを考える 「第3回大阪景観広告フォーラム」

ドラマやドキュメンタリーで「方、大阪では……」という時に映されるのは道頓堀。グリコを始めカニヤたこ……のリアルな立体造形、色彩も鮮やかな看板が目を引き、全国的な「大阪」のイメージにもなっています。この街の財産とも言える看板文化を守り、生かしていくために、日々の安全管理が欠かせません。フォーラムを通して、さまざまな観点から広告看板を考えました。

サインや屋外広告看板、それらの設置会社などの組合「大阪屋外広告美術協同組合(大広協)」が主催、大阪府・市を始め、府下の18の屋外広告物規制関係の行政、関西の関係団体に参加して、11月22日、広告物の適正な管理について話し合うフォーラムが道頓堀ホテルで開催されました。

昨年2月、札幌で落下した看板が通行中の女性に直撃し、重体となる大きな事故もありました。広告効果抜群の屋外広告ですが、ひとたび落下等の事故となれば、営業への影響、様々な補償、もし負傷・死傷者が



▲商店街各店に看板の安全管理、メンテナンスを呼びかけるチラシを配布。

出れば、取り戻せない被害を出す事になります。また、街全体としての甚大なイメージダウンも避けられません。そんな危機意識の元、参加者は真剣なまなざしでフォーラムに聞き入っていました。



▲道頓堀の看板見学の前に、昨年の見学で指摘された問題点などをスライドで解説。

芝居町から始まった道頓堀は、江戸期から幟や旗などの広告物が発達、近代以降ネ



▲あまり道頓堀に馴染みのない行政の方も有名看板に興味津々。「軽い素材で作られているんですね……」



▲昨年指摘されていたが、現在改修工事が進むボウリング場の看板を見学。

安全管理はどのよりも重要です。当商店会では、昨年末、会員全員に「看板安全に関するアンケート」を実施。27通の回答を得ましたが、そのうち、数件の相談があり、看板設置の専門家からアドバイスを受けています。また、クレーン車による看板の裏側までの写真撮影をする点検も実施しており、問題箇所の発見に努めています。今回のフォーラムで指摘していただいた問題点などを踏まえ、今後とも、立体看板を始め屋外広告の安全管理に対する取り組み、その重要さの広報・周知活動などをきめ細かく行っていきたいと思います。



▲それぞれの目線で気になる広告をチェック。



▲商店会に入ったグループでは、企業側から定期的な点検をしようとの提案も。

オンサインをいち早く取り入れるなど、いつの時代も屋外広告の先進地でした。また、大阪の観光案内パンフレットなどでは、「食いだおれの町」と並び、カニヤたこなどの立体看板が道頓堀の観光魅力として紹介されています。今や道頓堀の看板は観光資源としてなくてはならないものですし、これらは歴史も長く看板文化といえるものです。しかし、札幌のような事件を起こしてはなりません。道頓堀にとっ、屋外広告物の安全管理はどのよりも重要です。